



□ 大沢家

江戸の町家が草ぶき屋根から板ぶきへ、そして蔵造りへと移行する過程ははっきりしないが、裕福な商家が蔵造りを建てるようになったのは、江戸時代もごく末期のころだと考えられる。大沢家は、現存する最も古い蔵造りとして、寛政4年(1792年)呉服太物を商う近江屋半右衛門によって建てられた。明治26年の大火をまぬがれたものとして、その後の蔵造りブームを促したシンボル、昭和46年に国指定重要文化財の指定を受けた。